

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

語句選択 34 問 正誤判定 0 問 記述 24 問 論述 2 問(100 字、100 字) 計 60 問

分量・難易 (前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**)

大問数 5 題、論述を含めた小問 60 題は昨年度と同じであった。論述問題の字数は 2 題で合計 200 字であり、試験時間 60 分は余裕があるとは言えない。

出題の特徴や昨年との変更点

例年通り、I・II が語句選択、III が空欄補充の記述、IV・V が史料を素材とする記述・論述の問題。史料を踏まえて解答を作成する論述問題や、正解となる語句が語群にない場合に「0」と答える形式は文学部特有である。

歴史総合に関する出題が昨年度の 6 題から、13 題に増加した。

その他トピックス

歴史総合問題を含め、2001 年以降の問題が小問で 10 題も出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択	ヤマト政権の技術導入と政治体制・律令体制の形成と地方支配	全て基本的な単語なので、取りこぼすことなく全問正解したい。	易
II	語句選択	パレスチナ問題・同時多発テロ事件・リーマン=ショックと同時期の日本	大半が歴史総合からの出題で、日本史受験者にとっては厳しかっただろう。パレスチナやイスラエルなど中東戦争は知っていたんだろうが、時の政権担当者を問うのは難しい。リーマン=ショックは日本史でも学んだとは思うが、その当時の内閣を問うのはやや難しい。	難
III	記述	古代～近世の元号をつけた寺院	基本的なものばかりなので、全問正解したい。	易
IV	記述 論述	豊臣秀吉の土地・身分政策 《史料》	史料(ハ)が刀狩令であることが分かれれば、問2以外は解答できただろう。問9の論述は、史料(イ)から検地を通じた武士・農民統制を、史料(ハ)の刀狩令の内容から「兵農分離」を導けただろうが、史料(ロ)をどのように扱うかで迷ったかもしれない。	やや難
V	記述 論述	大久保利通の立憲政体に関する意見書 《史料》	問3・問4・問7は難。問8の「山川捨松」の名前を知っていたとしても、この問い合わせから導くのは難しかったかもしれない。問9の論述は、大久保利通の政体に関する考えを史料から読み取り、その政体の「長所」「短所」「評価」の3点を100字以内で上手くまとめるのが難しかっただろう。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書の内容をマスターするとともに、実戦力を持つために過去間に取り組むことが重要である。それにより、出題の難度を把握するだけでなく、適切な語句がない場合に「0」を選ばせる文学部特有の出題形式に慣れることができる。さらに、IV・V で出題される論述問題に対しては、日頃から実際に解答を作成する訓練などを積み、苦手意識をなくしておくことも合格の必須条件となるであろう。歴史総合からの出題は増加傾向にあり、日本史探究と関連させながら学習することが求められている。